

〈書 評〉

大谷 清 (国立療養所村山病院)

リハビリテーション整形外科学 改訂第3版

首藤 貴 (愛媛大学整形外科)

このたび、大谷 清先生の「リハビリテーション整形外科学」改訂第3版が出版された。1979年に初版が発行されて以来、版を重ねるごとに新しい知識を得るための項目が加えられ、リハビリテーション医学に関連する整形外科学が整理されて、一段と充実した内容を持つ教科書となってきた。

著者は、本書をリハビリテーション診療にたずさわるスタッフ、主として理学療法士・作業療法士の方々、またリハビリテーション学院の学生さんのための整形外科書として書かれている。そのため内容が的確に理解できるよ

うに、図・表・写真が合わせて356と数多く使用されていて読みやすく、読者の知識整理が自然にできるように配慮されている。本書の内容は、総論・各論とも読者のために非常にバランス良く構成され、適所に新しく有用な検査法や段階的な治療法、疾患の分類、評価判定基準、診断基準が盛り込まれている。各論中の疾患の説明においては、シェーマによる局所解剖がそれぞれの項に付加されて要点を整理しやすくなっているのは実に親切である。

このように本書が読者の理解しやすさに主眼をおいて書かれてい

る理由は、大谷先生が1972年より長年にわたり国立療養所東京病院付属リハビリテーション学院で教鞭をとられ、その間の講義のご経験により内容が磨き上げられたことによるものと思われる。本書の一頁一頁に、読者の気持ちをくみ上げながらこの本を教科書として育ててゆく著者の熱意と親切心を感じざるを得ない。

私は本書を患者さんへの病状説明のため、また、疾患分類や評価・診断基準を利用させていただくため診察室の手の届くところに置いている。

リハビリテーション診療に必要な整形外科学が全て網羅されている本とくに広く推薦する次第である。

(B 5, 頁228, 図220, 写真182,
1988, ¥4,635〔税込〕,
医学書院 刊)